

質問者 阿部 律子

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 女川原発の今後のあり方は住民投票で	7月3日と4日に原発対策特別委員会は、原発事故で全町避難している浪江町と大熊町を視察しました。
	特に浪江町では、津波で壊滅状態の請戸地区を副町長の案内で視察しましたが、時計の針が止まったまま、何も手付かずの荒れ放題の状況を目の当たりにして、原発事故とは、普通の災害とは全く異質の恐怖だと改めて実感しました。
	また、副町長が「全町民を短時間で避難させるのは不可能だ」と言い切ったことが、強く印象に残っています。これらの教訓を本町においても生かすべきと考え、次の点について伺います。
	(1) 福島悲劇から目をそらさず、「明日は我が身」ととらえ、今後の女川原発のあり方に生かしていくべきと考えますが、まずは視察に同行した執行部の感想を伺います。
	(2) 原発の防災計画と避難計画の策定はもちろんのこと、それが実効性あるものかどうか見きわめるべきだと思います。川内原発のある薩摩川内市では住民に安定ヨウ素剤配布を行いました
	が、本町では、全住民対象に配布することを検

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 道路嵩上げ工事は住民 合意を取り付けて	討すべきと思います。
	それらの計画をぬきにして、新規制基準のみ
	で判断すべきではないと考えますが、いかがで
	すか。
	(3) 女川原発の今後については、町や議会だけで
	決めるのではなく、住民の意志を確認し、意向
	を尊重しながら進めていくことが大前提であ
	り、そのためには、住民投票がふさわしい方法
	だと思いますが、いかがでしょうか。
	(質問の相手：町長・担当課長)
	東日本大震災から3年6カ月が経とうとしていま
	す。針浜地区は、被災後の地盤沈下により、大潮や
	満潮時、あるいは大雨時のたびに冠水に悩まされて
	きました。
	その後、町の対応でポンプアップの本数を増やす
	など、努力がなしてきたところです。
	現在、県工事として、岸壁の嵩上げが進められて
	おり、その後、震災前の高さに復旧するために、町
	道浦宿猪落線の嵩上げが計画されています。
	最近では、震災直後と違って道路の冠水状況もだい

質 問 者 阿 部 律 子

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	ぶ変化してきました。満潮時でも道路の海側のごく
	一部に限られ、かなり改善されてきたのが実情です。
	国土地理院のデータによると、平成 23 年の東日本
	大震災後の余効変動が東日本の広い範囲に見られる
	として、平成 26 年 7 月 28 日時点の地殻変動は牡鹿
	観測地点で 34.4 センチメートル隆起とあります。
	これらを考慮した場合、ただ 3 年前のデータを基
	に嵩上げされたのでは、道路だけが高くなり、大雨
	時などは民家の庭に池をつくるようなもので、床
	上・床下浸水が危惧されます。
	そこで次の点について伺います。
	(1) 震災当時の針浜地区における地盤沈下の数値
	と最新の余効変動による隆起について。
	(2) 道路嵩上げの計画内容と、実施時期について。
	(3) 住民に対して十分な説明と納得をえての工事
	を、そして工事後の対策をしっかりとすべきと
	考えますが。
	(質問の相手：町長・担当課長)